

教養科目（令和4年度入学生用）

科目区分	科目コード	科目名	単位	回数	学年	開講	担当教員	資格		摘要									
								教職	食品衛生監視員										
基盤教育群	基礎力養成	60010 基礎ゼミナール	①	15	1	前期	安部 貴洋 井間真理子 大益 史弘 加藤 守匡 金谷 由希 北林 蒔子 鈴木 美穂 沼山 博 南 育子												
		60020 キャリアデザイン									①	8	1	前期	後藤 和也				
		地域学									60111 山形の食と歴史	②	15	1	前期	青木・角屋			
		外国語									60210 英語Ⅰ	①	15	1	前期	阿部 隆夫			
											英語Ⅱ	①	15	2	前期	石田 陽子			
		60230 英会話Ⅰ									①	15	1	後期	ブライアン・ジェンクス	○		クラス別	
											英会話Ⅱ	1	15	2	後期	ブライアン・ジェンクス	○		
	情報処理	60310 情報基礎	②	15	1	前期	小池 隆太												
		60320 基礎情報処理演習	1	15	1	前期	伊豆田義人	○											
		60330 応用情報処理演習	1	15	1	後期	伊豆田義人	○											
保健体育	60410 体育理論	①	15	1	前期	加藤 守匡	○												
	60420 体育実技Ⅰ	1	15	1	後期	加藤 守匡	} ①												
		1	15	2	前期	加藤 守匡													
教養教育群	人間と文化・社会	60510 心理学	②	15	1	後期	沼山 博												
		コミュニケーション論	②	15	2	前期	沼山 博												
		60530 社会学	2	15	1・2・3・4	後期	阿部 晃士			集中									
		60540 教育学	2	15	1・2・3・4	前期	安部 貴洋												
		60550 法学（日本国憲法）	2	15	1・2・3・4	後期	堀田 学	○		短大と合同授業									
		60560 企業論	2	15	1・2・3・4	後期	高浜 快斗												
	異文化理解		2	15	3・4	前期	村瀬 桃子												
			国際関係論	2	15	3・4	後期	堀田 学			短大と合同授業								
	人間と自然	60611 微生物学	②	15	1	後期	熊田 薫		○	集中									
		60620 自然科学Ⅰ（化学）	2	15	1・2	前期	大益 史弘		○										
60630 自然科学Ⅱ（生物学）		2	15	1・2	前期	佐塚 正樹													
60640 自然科学演習		1	15	1	後期	大益 史弘		○											
60650 統計学		2	15	1	前期	鈴木 久美													

※ 「○数字」は必修単位、「} ○」は選択必修科目

※ 2年次以降の担当者は令和4年度のものであり、変更になる場合がある

教養科目（令和3年度入学生用）

科目区分	科目コード	科目名	単位	回数	学年	開講	担当教員	資格		摘要	
								教職	食品衛生監視員		
基盤教育群	基礎力養成	基礎ゼミナール	①	15	1	前期	安部 貴洋 井間真理子 大益 史弘 加藤 守匡 金谷 由希 北林 蒔子 沼山 博				
		〃									
		〃									
		〃									
		〃									
		〃									
		キャリアデザイン	①	8	1	前期	後藤 和也				
	地域学	山形の食と歴史	②	15	1	前期	青木・角屋				
	外国語	60220	英語Ⅰ	①	15	1	前期	阿部 隆夫			クラス別
			英語Ⅱ	①	15	2	前期	石田 陽子			
		英会話Ⅰ	①	15	1	後期	ブライアン・ジエングス	○			
60240		英会話Ⅱ	1	15	2	後期	ブライアン・ジエングス	○			
		情報処理	情報基礎	②	15	1	前期	小池 隆太			
	基礎情報処理演習	1	15	1	前期	伊豆田義人	○				
	応用情報処理演習	1	15	1	後期	伊豆田義人	○				
保健体育	60430	体育理論	①	15	1	前期	加藤 守匡	○		①	
		体育実技Ⅰ	1	15	1	後期	加藤 守匡				
		体育実技Ⅱ	1	15	2	前期	加藤 守匡				
教養教育群	人間と文化・社会	60520	心理学	②	15	1	後期	沼山 博			集中
			コミュニケーション論	②	15	2	前期	沼山 博			
		60530	社会学	2	15	1・2・3・4	後期	阿部 晃士			
		60540	教育学	2	15	1・2・3・4	前期	安部 貴洋			
		60550	法学（日本国憲法）	2	15	1・2・3・4	後期	堀田 学	○		
		60560	企業論	2	15	1・2・3・4	後期	高浜 快斗			
			異文化理解	2	15	3・4	前期	村瀬 桃子			
			国際関係論	2	15	3・4	後期	堀田 学			
	人間と自然	60620	微生物学	②	15	1	前期	熊田 薫		○	集中
			自然科学Ⅰ（化学）	2	15	1・2	前期	大益 史弘		○	
60630			自然科学Ⅱ（生物学）	2	15	1・2	前期	佐塚 正樹			
自然科学演習			1	15	1	後期	大益 史弘		○		
統計学			2	15	1	前期	鈴木 久美				

※ 「○数字」は必修単位、「} ○」は選択必修科目

※ 3年次以降の担当者は令和4年度のものであり、変更になる場合がある

教養科目（令和2年度入学生用）

科目区分	科目コード	科目名	単位	回数	学年	開講	担当教員	資格		摘要
								教職	食品衛生監視員	
基盤教育群	基礎力養成	基礎ゼミナール	①	15	1	前期	安部 貴洋 井間真理子 江口 智美 大益 史弘 加藤 守匡 金谷 由希 北林 蒔子 沼山 博			
		〃								
		〃								
		〃								
		〃								
		〃								
		〃								
		キャリアデザイン	①	8	1	前期	後藤 和也			
	地域学	山形の食と歴史	②	15	1	前期	青木・角屋			
	外国語	英語Ⅰ	①	15	1	前期	阿部 隆夫			クラス別
英語Ⅱ		①	15	2	前期	小林 亜希				
英会話Ⅰ		①	15	1	後期	ブライアン・ジエングス	○			
英会話Ⅱ		1	15	2	後期	ブライアン・ジエングス	○			
情報処理	情報基礎	②	15	1	前期	小池 隆太				
	基礎情報処理演習	1	15	1	前期	伊豆田義人	○			
	応用情報処理演習	1	15	1	後期	伊豆田義人	○			
保健体育	体育理論	①	15	1	前期	加藤 守匡	○		①	
	体育実技Ⅰ	1	15	1	後期	加藤 守匡				
	体育実技Ⅱ	1	15	2	前期	加藤 守匡				
教養教育群	人間と文化・社会	心理学	②	15	1	後期	沼山 博			集中
		コミュニケーション論	②	15	2	前期	沼山 博			
		60530 社会学	2	15	1・2・3・4	後期	阿部 晃士			
		60540 教育学	2	15	1・2・3・4	前期	安部 貴洋			
		60550 法学（日本国憲法）	2	15	1・2・3・4	後期	堀田 学	○		
		60560 企業論	2	15	1・2・3・4	後期	高浜 快斗			
		60570 異文化理解	2	15	3・4	前期	村瀬 桃子			
	60580 国際関係論	2	15	3・4	後期	堀田 学				
人間と自然	微生物学	②	15	1	前期	熊田 薫		○	集中	
	自然科学Ⅰ（化学）	2	15	1・2	前期	大益 史弘		○		
	自然科学Ⅱ（生物学）	2	15	1・2	前期	佐塚 正樹				
	自然科学演習	1	15	1	後期	大益 史弘		○		
	統計学	2	15	1	前期	鈴木 久美				

※ 「○数字」は必修単位、「} ○」は選択必修科目

※ 4年次の担当者は令和4年度のものであり、変更になる場合がある

教養科目（平成31年度入学生用）

科目区分	科目コード	科目名	単位	回数	学年	開講	担当教員	資格		摘要
								教職	食品衛生監視員	
基盤教育群	基礎力養成	基礎ゼミナール	①	15	1	前期	安部 貴洋 大益 史弘 沼山 博 北林 蒔子 山口 光枝 江口 智美 金谷 由希			
		〃								
		〃								
		〃								
		〃								
		〃								
		キャリアデザイン	①	8	1	前期	西村恵美子			
	地域学	山形の食と歴史	②	15	1	前期	上野・青木			
	外国語	英語Ⅰ	①	15	1	前期	阿部 隆夫			
		英語Ⅱ	①	15	2	前期	北山 長貴			
英会話Ⅰ		①	15	1	後期	ブライアン・ジ・エンクス	○		クラス別	
英会話Ⅱ		1	15	2	後期	ブライアン・ジ・エンクス	○			
情報処理	情報基礎	②	15	1	前期	小池 隆太				
	基礎情報処理演習	1	15	1	後期	伊豆田義人	○			
	応用情報処理演習	1	15	2	前期	伊豆田義人	○			
保健体育	体育理論	①	15	1	前期	鹿俣 修	○			
	体育実技Ⅰ	1	15	1	後期	加藤 守匡	①			
	体育実技Ⅱ	1	15	2	前期	加藤 守匡				
教養教育群	人間と文化・社会	心理学	②	15	1	後期	沼山 博			
		コミュニケーション論	②	15	2	前期	沼山 博			
		60530 社会学	2	15	1・2・3・4	後期	阿部 晃士			集中
		60540 教育学	2	15	1・2・3・4	前期	安部 貴洋			
		60550 法学（日本国憲法）	2	15	1・2・3・4	後期	堀田 学	○		短大と合同授業
		60560 企業論	2	15	1・2・3・4	後期	高浜 快斗			
		60570 異文化理解	2	15	3・4	前期	村瀬 桃子			
		60580 国際関係論	2	15	3・4	後期	堀田 学			短大と合同授業
人間と自然	微生物学	②	15	1	前期	熊田 薫		○	集中	
	自然科学Ⅰ（化学）	2	15	1・2	前期	大益 史弘		○		
	自然科学Ⅱ（生物学）	2	15	1・2	前期	佐塚 正樹				
	自然科学演習	1	15	1	前期	大益 史弘		○		
	統計学	2	15	1	後期	鈴木 久美				

※ 「○数字」は必修単位、「} ○」は選択必修科目

講義科目名称：基礎ゼミナール（60010）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	必修
担当教員			
安部・井間・大益・加藤・金谷・北林・鈴木・沼山・南			
基盤教育群	基礎力養成		授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	<p>テーマ：大学での生活や学習に慣れる</p> <p>到達目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 学科内における人間関係を構築し、生産的に議論できる雰囲気を作る。</li> <li>2) テーマを設定して、情報収集し、レポート作成することができる。</li> <li>3) プレゼンテーション資料を作成し、プレゼンテーションすることができる。</li> <li>4) 学内資源の利用法を理解できる</li> <li>5) 大学の講義の受け方やノートの取り方、学習の仕方について自分の方針を持てる。</li> <li>6) 専門を支える教養を高めることに関心を持てる。</li> </ol>
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 リレーションづくり 語り合い等を通して、人間関係を作る</p> <p>第3回 大学の講義とノートテイキング(1)</p> <p>第4回 大学の講義とノートテイキング(2)</p> <p>第5回 研究テーマに即したレポート作成(1) 研究テーマ設定のための情報収集・図書館ガイダンス</p> <p>第6回 研究テーマに即したレポート作成(2) レポート作成のための情報収集</p> <p>第7回 研究テーマに即したレポート作成(3) レポート作成</p> <p>第8回 研究テーマに即したレポート作成(4) レポート作成と推敲</p> <p>第9回 専門を支える教養に関心を持つ(1) ゲストスピーカーによる講話</p> <p>第10回 専門を支える教養に関心を持つ(2) ゲストスピーカーによる講話</p> <p>第11回 専門を支える教養に関心を持つ(3) ゲストスピーカーによる講話</p> <p>第12回 プレゼンテーション資料の作成 プレゼンテーション資料の作成</p> <p>第13回 プレゼンテーションの練習</p> <p>第14回 プレゼンテーションとディスカッション(1)</p> <p>第15回 プレゼンテーションとディスカッション(2)</p>
成績評価・方法	授業への取り組み20%、レポート40%、プレゼンテーション40%
授業概要	次の①～④を行う。①学生同士・教員の交流を深め、学生の自覚と学習意欲を高める。②少人数クラスによるゼミ形式とし、ノートの取り方、レポートの書き方、図書館の使い方、文献検索の方法等のスタディスキルを習得する。③論理的思考や発表技法を学ぶためプレゼンテーションやディスカッションを行い、コミュニケーション能力を身に付ける。④関連領域のゲストスピーカーによる講話を聴き、専門を支える教養を高めることに関心を持つための機会も持つ。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	課題レポート、プレゼンテーション用の資料の作成を行うこと。講義以外でもゼミ生を中心に、学生同士で積極的にかかわりを持ち、互いに支え合うようにすること。
教科書	適宜資料を配布する。
参考文献	学習技術研究会編「知へのステップ」（くろしお出版）
履修条件	伊豆田義人先生「基礎情報処理演習」を着実に履修し、必要なスキルを身につけておくこと。
備考	レポートやプレゼンテーション・データの提出締切を守ること。ゼミごとの活動の詳細についてはゼミ担当教員より指示を受けること。新型コロナ対策、ゲストスピーカーの都合等により授業計画に変更が生じる場合があるので、連絡に注意すること。

講義科目名称：キャリアデザイン（60020）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	必修
担当教員			
後藤 和也			
基盤教育群	基礎力養成		授業形態：講義・演習
授業のテーマ及び到達目標	皆さん自身の「キャリア」について、「自分を知る」をテーマに展開します。就職活動（就活）では、「コミュニケーション能力」と称される汎用的なスキル（ジェネリック・スキル）が求められる傾向にあります。さらには、管理栄養士として就職後も、職場内で良好な人間関係を築き上げることは、専門職としてキャリアを積む中で欠かせません。当該授業をとおして、それらの能力の育成を図りたいと思います。併せて、今後の自分なりのキャリアについて考えてみましょう。当授業では「ジェネリック・スキルとは何かを言葉や文章で説明できる」、「どのような経験や活動が自身のジェネリック・スキルの伸長に関係しているかを言葉や文章で説明できる」ことを到達目標とします。		
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 コミュニケーション能力 第3回 自己効力・モチベーション 第4回 チーム・リーダーシップ 第5回 意思決定 第6回 キャリアにおける偶然性 第7回 メンター・発達のネットワーク 第8回 適性・キャリアアンカー・目標設定		
成績評価・方法	授業への貢献度（議論の参加態度やグループ内での役割、授業中の発言・質疑の内容、授業の感想内容の質）30%、最終レポート等の記載内容等70%により評価する		
授業概要	社会的・職業的自立に向けて有用なジェネリックスキルを育成すべく、グループワーク等を取り入れながら授業を行います。ただ話を聞くだけではなく、自分自身の経験を振り返ったり、自身の考えを文章にしたりする機会が多い授業となります。		
実務経験及び授業の内容	人事・採用・人材育成（企業内キャリア形成）等の実務経験を持つ教員が、その知見を活かし学生におけるキャリアを支援するための授業を行う。		
時間外学習	毎回の授業で取り上げる問題について、自分の見方・考え方を整理すること。		
教科書	教科書は指定せず、適宜プリントを配布します。		
参考文献			
履修条件			
備考	・新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、授業の実施方法に変更が生じる可能性があります。詳しくは授業内で説明します		

講義科目名称：山形の食と歴史（60111）

授業コード：

英文科目名称：-

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	必修
担当教員			
青木 昭博 ・ 角屋 由美子			
基盤教育群	地域学		授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	<p>1 山形県は大きく4つの地域に分かれ、それぞれ特徴的な食文化が存在する。多彩で豊かな在来作物や伝統野菜、様々な行事に伴う郷土料理など、地域に根ざした食の文化を学ぶとともに、山形県の食生活の現状、並びに地産地消推進についての理解も深める。また、農業体験を通し、農産物を食生活の中に多様に活用できる人材を育てる。</p> <p>2 山形県および米沢市の歴史と文化について、その概要を画像や資料などから学び、地域の特徴を理解すると共に、地域に対する興味や愛着心を深める。</p> <p>3 上杉鷹山の藩政改革から、地産地消の取り組みや「かてもの」を紹介し、先人の知恵を学ぶ。</p>		
授業計画	<p>第1回 山形の自然と風土（きてけろくん・校歌と県民歌・庄内と内陸）（担当：青木）</p> <p>第2回 原始・古代・中世の山形（担当：青木） 縄文の女神・彩色土器・山形の古墳と荘園・山形の仏像文化</p> <p>第3回 特色のある山形県の食材と料理（置賜・村山地方）（担当：角屋）</p> <p>第4回 農産物の栽培（担当：角屋）</p> <p>第5回 特色のある山形県の食材と料理（庄内・最上地方）（担当：角屋）</p> <p>第6回 山形の戦国時代と近世の諸相（担当：青木） 最上義光と伊達政宗・最上川と紅花・出羽三山・奥の細道</p> <p>第7回 直江兼統と城下町米沢（城下町米沢の構造と特色・街並みの推移）（担当：青木）</p> <p>第8回 他県の郷土料理と食材（グループ発表）①(担当：角屋)</p> <p>第9回 他県の郷土料理と食材（グループ発表）②(担当：角屋)</p> <p>第10回 上杉鷹山と米沢藩の改革（なせばなる・漆の実のみのる国・伝国の詞）（担当：青木）</p> <p>第11回 山形県の成立と近代山形（土木県令・東洋のアルカディア・米沢工業高等学校）（担当：青木）</p> <p>第12回 古代・中世の山形の食文化（担当：角屋）</p> <p>第13回 現代の山形の姿と課題、そして未来（担当：青木） 「つや姫」と「ゆき若丸」・山形新幹線・少子高齢化</p> <p>第14回 農業体験 収穫をとおして地産地消を学ぶ(担当：角屋) ※天候により、第15回と入れ替えになる可能性あり</p> <p>第15回 「かてもの」近世に見る食の役割（担当：角屋）</p>		
成績評価・方法	山形の食（担当角屋）：試験40%、授業への参加度（発言他）10% 山形の歴史（担当青木）：レポート30%、授業への参加度（ミニレポート）20%		
授業概要	山形県の歴史を学び、地域の特性を理解するとともに、人々の食文化が時代により、また地域により、どのように育まれたかを考える。学生自身の出身地などを見直し、比較する意見交換や実際の農業体験を通して、地域の食文化に対する関心を深める。		
実務経験及び授業の内容	<p>（青木）長年、米沢市史編さん室や市立米沢図書館（郷土資料担当）に勤務。山形県の食と歴史では、歴史分野を担当し、写真や表等の多くのスライドを用いた授業を行う。</p> <p>（角屋）米沢市上杉博物館学芸員として、担当した展覧会、参加した共同研究等から「食」に関わる部分を題材として、講義のほか畑体験やグループ発表などの授業を行う。</p>		
時間外学習	参考文献を参照し、復習して授業内容を定着させる。		
教科書	教科書はなし。適宜資料を配布する。		
参考文献	<p>『「かてもの」をたずねる』高垣順子著 『農と食』山形県検定テキスト</p> <p>『山形の郷土料理』生活改善実行グループ連絡研究会編</p> <p>『山形県の歴史散歩』（山川出版社）『代表的日本人』（岩波文庫）</p>		
履修条件			
備考			

講義科目名称：英語 I (60210)

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	必修
担当教員			
阿部 隆夫			
基盤教育群	外国語		授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	三個の主題に沿って進める。第一は、自然科学関係の英語の文章を効率的に読みこなす練習をすることである。第二は、英語圏を中心に異文化に関する資料を読みながら語彙を増やすことである。第三には、今後日本で起こりうる異文化間の交流に必要なコミュニケーション技術を習うことである。		
授業計画	第1回	BH Unit 7; 異文化 Case 1-2; TOEIC導入 BH導入; 英語における呼称の文化的問題; TOEIC導入	
	第2回	BH Unit 7; TOEIC Part 1 Unit 8 聞き取り練習; TOEIC Part 1, 写真問題攻略方法解説	
	第3回	異文化 Case 3-4; TOEIC Part 2 知らない人と話す; TOEIC Part 2, 応答問題解説	
	第4回	BH Unit 8; TOEIC Part 2 Unit 8 聞き取り練習; TOEIC Part 2 応答問題練習	
	第5回	異文化 Case 5-6; TOEIC Part 3 英語圏でのあいさつとスピーチ; TOEIC Part 3 会話問題解説	
	第6回	BH Unit 9; TOEIC Part 3 Unit 9 聞き取り練習; TOEIC Part 3 会話問題練習	
	第7回	異文化 Case 7-8; TOEIC Part 4 パーティー・会食の英語コミュニケーション文化; TOEIC Part 4 アナウンス問題解説	
	第8回	BH Unit 10; TOEIC Part 4 Unit 10 聞き取り練習; TOEIC Part 4 アナウンス問題解説	
	第9回	異文化 Case 9-10; TOEIC Part 4 贈り物、お礼の英語習慣; TOEIC Part 4 アナウンス問題練習	
	第10回	BH Unit 11; TOEIC Part 5 Unit 11 聞き取り練習; TOEIC Part 5 文法問題攻略方法解説	
	第11回	異文化 Case 11-12; TOEIC Part 5 依頼、電話の英語文化; TOEIC Part 5 文法問題解説	
	第12回	BH Unit 12; TOEIC Part 6 Unit 12 聞き取り問題; TOEIC Part 6 文章完成問題解説	
	第13回	異文化 Case 13-14; TOEIC Part 7 招待する・招待される英語圏の習慣; TOEIC Part 7 読解問題攻略方法	
	第14回	BH Unit 13; TOEIC Part 7 Unit 13 聞き取り練習; TOEIC Part 7 読解問題解説	
	第15回	異文化 Case 15-16; TOEIC Part 7 複雑状況コミュニケーションと単純状況コミュニケーション; TOEIC Part7 読解問題練習	
成績評価・方法	小テスト30%、期末試験40%、提出課題15%、復習音読15% 他、TOEIC公式会場テストを受験し一定の点数を取得した場合は努力点として加味する		
授業概要	英語の社会言語文化を題材にしながら、聞く・話す・読む・書くという基本四技能に加え、それを統括する5番目の技能である異文化間コミュニケーション能力を養う。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	隔週回で教室授業の開始時に書き取り試験 (dictation)を実施するので、教科書の本文を音声データを聞きながら正確に音読する練習が必要である。		
教科書	Toshiaki Nishihara, Better Health for Every Day (金星堂2014年)[上記BHと略記]; 阿部隆夫他著『42の事例から考察する異文化間英語コミュニケーション』(開拓社2020年) [または廉価版: タカオ・アベ『ピンときた! 納得の異文化間英語コミュニケーション』(開拓社2012年)] [「異文化」と略記]; 公式TOEIC Listening&Reading 問題集7 (TOEICと略記)		
参考文献			
履修条件			
備考			



講義科目名称：英語Ⅱ（60220）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	必修
担当教員			
石田 陽子			
基盤教育群	外国語		授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	(1) 高校で学習していながらピンときていない英文法を復習する。(2) 基本的な語彙を品詞を意識しながら復習するとともに新しく語彙を増やす。(3) 簡単なdictationを行い英語を聞く時間を持つ。(4) 社会人になっても英語を学び続けるヒントを見つける。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 Unit 1 The Challenges of Teaching English amid Coronavirus</p> <p>第3回 Unit 3 A Bitter Taste for Healthy Fish</p> <p>第4回 Unit 4 Robots Luring Diners Back</p> <p>第5回 Unit 5 Toilet Designs Aim to Flush Away Issues</p> <p>第6回 Unit 6 Teleworking Encourages Tokyo Exodus</p> <p>第7回 Unit 7 Learning to Love Rural Japan</p> <p>第8回 Unit 8 Advocate for Abduction Issue Remembered</p> <p>第9回 Unit 9 Clay artist in Touch with Tradition</p> <p>第10回 Unit 10 Space Development Board Game</p> <p>第11回 Unit 11 Tatami Takes on New Shapes and Sizes</p> <p>第12回 Unit 12 A Runway to a New Start</p> <p>第13回 Unit 14 Tochigi Gourd Magic</p> <p>第14回 Unit 15 Lifesaver for Type 1 Diabetes Patients</p> <p>第15回 まとめ</p>
成績評価・方法	授業時間内に行う小テスト・課題80%、発表など授業への取り組み20%
授業概要	(1) 映像を見る。(2) 予習してきたdictationの解答と説明。(3) 予習の発表と語句や文法の説明。(4) 語句・文法の確認小テスト
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	(1) 何度も映像を見てくること。(2) 辞書を使って本文の内容を予習してくること。
教科書	Tatsuro Yamazaki著, NHK NEWSLINE 5 (金星堂) 2,400円 ISBN978-4-7647-4144-7 C1082
参考文献	
履修条件	
備考	

講義科目名称：英会話 I (60230)

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	必修
担当教員			
Bryan Jennings			
基盤教育群	外国語		授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	このクラスでは、興味深いトピックについて学び、クラスメートとそれについて話し合います。その後、学んだトピックについて2つのプレゼンテーションをしてもらいます。		
授業計画	第1回	オリエンテーション	
	第2回	オンライントピック 1	
	第3回	オンライントピック 1	
	第4回	オンライントピック 2	
	第5回	オンライントピック 2	
	第6回	トピック 3	
	第7回	プレゼンテーション 1 の準備	
	第8回	プレゼンテーション 1	
	第9回	トピック 4	
	第10回	トピック 4	
	第11回	トピック 5	
	第12回	トピック 5	
	第13回	トピック 6	
	第14回	プレゼンテーション 2 の準備	
	第15回	プレゼンテーション 2	
成績評価・方法	プレゼンテーション1: 25%, プレゼンテーション2:25%, 参加:30%, 読解:20%		
授業概要	学生は授業の前に配布資料をダウンロードし、その情報を確認します。それからクラスでこれらのフレーズを練習します。情報に関する5つの短いテストがあります。生徒は英語での2分間の会話で構成される2つのスピーキングテストがあります。		
実務経験及び授業の内容	山形大学での英会話の指導経験を生かし、面白いトピックを使って役に立つ英語のフレーズを授業に取り入れていきます。また、ペアで英語の会話を練習する機会を設けます。		
時間外学習	生徒は自分の家でクラスのフレーズを練習する必要があります。		
教科書	無し。資料を配布します。		
参考文献			
履修条件			
備考			

講義科目名称：英会話Ⅱ（60240）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	選択
担当教員			
Bryan Jennings			
基盤教育群	外国語		授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	このクラスでは、興味深いトピックについて学び、クラスメートとそれについて話し合います。その後、学んだトピックについて2つのプレゼンテーションをしてもらいます。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 オンライントピック 1</p> <p>第3回 オンライントピック 1</p> <p>第4回 オンライントピック 2</p> <p>第5回 オンライントピック 2</p> <p>第6回 トピック 3</p> <p>第7回 プレゼンテーション 1 の準備</p> <p>第8回 プレゼンテーション 1</p> <p>第9回 トピック 4</p> <p>第10回 トピック 4</p> <p>第11回 トピック 5</p> <p>第12回 トピック 5</p> <p>第13回 トピック 6</p> <p>第14回 プレゼンテーション 2 の準備</p> <p>第15回 プレゼンテーション 2</p>
成績評価・方法	プレゼンテーション1 25%，プレゼンテーション2： 25%，参加：30%，読解：20%
授業概要	学生は授業の前に配布資料をダウンロードし、その情報を確認します。それからクラスでこれらのフレーズを練習します。情報に関する5つの短いテストがあります。生徒は英語での2分間の会話で構成される2つのスピーキングテストがあります。
実務経験及び授業の内容	山形大学での英会話の指導経験を生かし、面白いトピックを使って役に立つ英語のフレーズを授業に取り入れていきます。また、ペアで英語の会話を練習する機会を設けます。
時間外学習	生徒は自分の家でクラスのフレーズを練習する必要があります。
教科書	無し。資料を配布します。
参考文献	
履修条件	
備考	

講義科目名称：情報基礎（60310）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	必修
担当教員			
小池 隆太			
基盤教育群	情報処理		授業形態：講義
授業のテーマ及び到達目標	<p>情報学の基礎理論を前提に、現代の情報化社会がどのようなシステムに支えられているのかを知り、さらに情報セキュリティや著作権をはじめとした知的財産権の概念と制度をあわせて理解することで、技術と制度の両側面から現代社会における「情報」の重要性を学ぶことをテーマとします。</p> <p>到達目標としては、ネットワークを含めたデジタル技術ならびに情報をめぐる諸制度について、実社会での活用と運用をめぐる課題を捉えることができる視点を養ってもらえればと考えています。</p>		
授業計画	<p>第1回 インTRODクシヨン アナログとデジタル</p> <p>第2回 記号とコミュニケーション</p> <p>第3回 コンピュータと情報システムの歴史</p> <p>第4回 コンピュータの構造</p> <p>第5回 コンピュータとインターフェース</p> <p>第6回 コンピュータと記憶装置</p> <p>第7回 アルゴリズムとプログラミング、ネットワーク</p> <p>第8回 インターネットの歴史と仕組み</p> <p>第9回 移動体通信とソーシャルメディア</p> <p>第10回 情報セキュリティ</p> <p>第11回 個人情報の管理とメディアリテラシー</p> <p>第12回 著作権と著作者人格権</p> <p>第13回 著作権の権利制限と自由利用</p> <p>第14回 知的財産権と肖像権</p> <p>第15回 アクセシビリティと制度</p>		
成績評価・方法	課題（授業中に提出）40%、期末レポート60%		
授業概要	<p>本講義では、情報化社会に必要な情報処理技術の基礎知識を学び、情報システムの活用と情報の発信に求められる基本的な概念の習得をはかります。具体的には、デジタルデータとコンピュータの構造、情報システムとネットワーク、情報セキュリティ、メディアリテラシー、知的財産権・著作権の保護、個人情報の管理等について学ぶことで、技術的観点と制度的観点の双方から現代社会における情報システムの役割について理解することになります。</p>		
実務経験及び授業の内容	<p>第一種情報処理技術者（旧通商産業省）の国家資格を有し、プログラマ/システムエンジニアとしての実務経験があります。その経験を反映したシステムの解説を行います。</p>		
時間外学習	<p>私たちが社会生活において活用している各種のシステムや情報・知的財産権に関する制度について観察・解説してもらった課題を行います。本学のオンライン学習システムであるMicrosoft Teamsを活用した課題やリアクションペーパーの提出によって、学修内容を深めてもらう予定です。</p>		
教科書	資料プリントを適宜配布します。		
参考文献			
履修条件			
備考			

講義科目名称：基礎情報処理演習（60320）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	選択
担当教員			
伊豆田 義人			
基盤教育群	情報処理		授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	本演習では、情報化社会に生きていくための必須の情報処理の基礎知識および必要不可欠な活用能力を身に付ける。情報活用の基礎知識として、情報システムの使い方やインターネットによる情報収集、メールシステムの利用のほか、ブラインドタッチの基本や文書作成ソフト（ワード）、データ活用（表計算ソフト・エクセル）とプレゼンテーションソフト（パワーポイント）の活用方法を習得する。
授業計画	<p>第1回 学内情報システムの紹介と機器の使い方。個人Eメール等のネットワークシステムの設定等 ※この授業計画は予定なので授業の進み具合等により若干変更する場合がある。</p> <p>第2回 ブラインドタッチの基本的なスキル取得。キーボードのホームポジション、上・下段の練習</p> <p>第3回 文書作成－その1。ソフトの基本操作やデータの入力と書式の設定、文字のみの文書の作成</p> <p>第4回 文書作成－その2。図形文書の基本的な事項。図形文書作成と編集。パンフレットの作成</p> <p>第5回 文書作成－その3。表の作成・編集。文中の表、および表としてのページ。表を用いた文書</p> <p>第6回 文書作成－その4。本と論文の原型。見出しや図表式の目次や索引、脚注等を有する文書</p> <p>第7回 文書作成－その5。ビジネス文書の基本的な事項。種々のビジネス文書の作成、編集、管理</p> <p>第8回 データ活用－その1。ソフトの基本操作。データの入力、表の作成や編集、書式の設定</p> <p>第9回 データ活用－その2。計算式の挿入。四則演算や合計、平均などの基本的な数式の使い方</p> <p>第10回 データ活用－その3。情報の参照。表間やファイル間のデータのやり取りと参照と処理</p> <p>第11回 データ活用－その4。集計。大量の数字データに対する一元的なデータの集計やクロス集計</p> <p>第12回 データ活用－その5。グラフによる情報の可視化。グラフの作成、編集と書式の設定</p> <p>第13回 データ活用－その6。総合問題</p> <p>第14回 プレゼンテーション。ソフトの基本的な操作やスライドの作成・編集・設定を学習</p> <p>第15回 画像処理ソフトの基本。画像の加工、補正、編集、合成等について学習</p>
成績評価・方法	<p>入力課題：25%。※未提出または未完成課題が一つ以上の場合、『入力課題=25%満点中0%』</p> <p>授業課題：28%。まとめの課題：12%。期末課題：35%。</p> <p>ただし、減点の対象：</p> <p>(1) 公欠以外の欠席や無断退室等</p> <p>(2) 遅刻（出欠確認後）</p> <p>(3) 携帯電話等の無許可使用や授業とは関係のない活動</p> <p>授業の進捗状況などにより評価方法が変更となる場合もある</p>
授業概要	授業でのタイピング訓練は最初の2回ほどのみで、それ以降は各自で放課後等の時間に与えられた長文を入力して宿題を提出する。実践的な問題を解きながら文書作成ソフトおよび表計算ソフトの活用方法を学習する。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	本科目では、1.5時間の事前学習、3時間の事後学習を前提として各授業回の内容を構成している。よって、合計15回における事前事後学習の合計時間は67.5時間としている。ただし、この科目では社会で求められている様々なスキルの習得を目的としているのでこの合計時間は最低時間数である。
教科書	指定しない（授業中に適宜資料を配布する）。その都度、授業内容に適した参考書を指定する。
参考文献	初回に紹介する。
履修条件	
備考	

講義科目名称：応用情報処理演習（60330）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	選択
担当教員			
伊豆田 義人			
基盤教育群	情報処理		授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	本演習では、統計学に基づくデータ分析の方法を学習する。統計分析ソフトを活用しながら確率論と統計検定について学ぶ。到達目標は情報の客観的に分析することでデータの処理および読み解く力を身につけることである。		
授業計画	第1回	ガイダンス、ソフト環境の整備 ※この授業計画は予定なので授業の進み具合等により若干変更する場合がある。	
	第2回	基本事項の確認・順列	
	第3回	組み合わせ	
	第4回	確率論－基本	
	第5回	確率論－確率変数と確率分布	
	第6回	統計学の基本・統計量・ヒストグラム等	
	第7回	検定1：F-検定（等分散の検定）、t-検定（平均値の検定）－その1	
	第8回	検定2：t-検定－その2	
	第9回	検定2：t-検定－その3	
	第10回	検定2：t-検定－その4	
	第11回	検定3：ANOVA（分散分析法・多群の平均値の検定）－その1	
	第12回	検定3：ANOVA（分散分析法・多群の平均値の検定）－その2	
	第13回	検定3：ANOVA（分散分析法・多群の平均値の検定）－その3	
	第14回	検定3：ANOVA（分散分析法・多群の平均値の検定）－その4	
	第15回	検定4：X <sup>2</sup> 適合度検定（比率の検定）、その他の検定	
成績評価・方法	授業課題：40%。期末課題：40%。平常点：20% ただし、減点の対象： (1) 公欠以外の欠席や無断退室等 (2) 遅刻（出欠確認後） (3) 携帯電話等の無許可使用や授業とは関係のない活動 授業の進捗状況などにより評価方法が変更となる場合もある		
授業概要	毎回、事前学習用の課題等を与えるので、指示に従って予習と復習をする。授業では概説を行った後にソフトを使って課題を作成しながら、学習内容への理解を深める。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	本科目では、2時間の事前学習、2.5時間の事後学習を前提として各授業回の内容を構成している。よって、合計15回における事前事後学習の合計時間は67.5時間としている。ただし、今後の学習等でも必要になるスキルなので、この合計時間は最低時間数である。		
教科書	指定しない（授業中に適宜資料を配布する）。その都度、授業内容に適した参考書を指定する。		
参考文献	初回に紹介する。		
履修条件	(1) 実践的に確率論と統計検定を学習したいという気持ち、または意欲を有すること。 (2) 受講期間中にパソコンと仲良くする、あるいはその努力をすること。		
備考			

講義科目名称：体育理論（60410）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	必修
担当教員			
加藤 守匡			
基盤教育群	保健体育		授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	体力の概念や運動への意思・意欲、日常生活における活動やスポーツが身体の発育や身体機能の維持・増進に与える役割を理解する。
授業計画	<p>第1回 日常の身体活動量、運動不足</p> <p>第2回 体力の構成要素、体力評価の方法</p> <p>第3回 発育発達と体力</p> <p>第4回 加齢と体力</p> <p>第5回 健康と体力</p> <p>第6回 各種運動におけるエネルギー供給</p> <p>第7回 運動前の準備と確認事項</p> <p>第8回 運動トレーニングに適切な運動負荷</p> <p>第9回 健康増進のための取り組み</p> <p>第10回 肥満、体重調節と運動</p> <p>第11回 疲労と体力</p> <p>第12回 軽運動及びストレッチング</p> <p>第13回 運動とメンタルヘルス</p> <p>第14回 学生生活と運動量、健康との関連</p> <p>第15回 生涯スポーツと健康</p>
成績評価・方法	テスト40%、レポート40%、態度（理由、報告のない欠席、積極性等）20%
授業概要	日常生活の活動やスポーツと体力・健康との関わりを学習し生涯に渡り活動的なライフスタイル構築の意義を学習する。
実務経験及び授業の内容	自治体での健康推進計画（米沢市、長井市）や介護保険運営協議会（米沢市）、認知症施策推進行動計画（山形県）、様々な自治体での運動教室やスポーツ指導、山形県スポーツ医科学推進会議委員、山形県トレーナー協会理事などでの経験を生かし体育理論の授業を行う。
時間外学習	授業を踏まえて資料等を読み直す。毎回の授業やノートやメモを整理する。
教科書	資料を適宜配布します。
参考文献	
履修条件	
備考	

講義科目名称：体育実技 I (60420)

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	選択必修
担当教員			
加藤 守匡			
基盤教育群	保健体育		授業形態：実習

授業のテーマ及び到達目標	実技を通じて、自ら実践していく能力を習得する。また、学生間のコミュニケーションの活性化やスポーツに親しむ態度を学習し運動を通じた健康の維持増進を理解する。
授業計画	<p>第1回 ストレッチングと有酸素運動（ウォーキング速度の設定）</p> <p>第2回 ストレッチングと有酸素運動（個人毎に設定した速度で ウォーキング）</p> <p>第3回 ストレッチングと有酸素運動（ウォーキングとジョギング）</p> <p>第4回 音楽に合わせた全身運動（動きの確認と低強度運動）</p> <p>第5回 音楽に合わせた全身運動（低強度運動と中強度運動）</p> <p>第6回 トレッドミル装置を用いた有酸素運動（ウォーキング速度の設定）</p> <p>第7回 トレッドミル装置を用いた有酸素運動（個人毎に設定した 速度でウォーキング）</p> <p>第8回 トレッドミル装置を用いた有酸素運動（ウォーキングと ジョギング）</p> <p>第9回 自転車エルゴメーターを用いた有酸素運動（運動負荷設定）</p> <p>第10回 自転車エルゴメーターを用いた有酸素運動（個人毎に設定した負荷で運動）</p> <p>第11回 器具を使った筋力トレーニング（負荷調整の習得）</p> <p>第12回 器具を使った筋力トレーニング（個人毎に設定し負荷で運動）</p> <p>第13回 バランスボールを用いた運動（個人で行う運動）</p> <p>第14回 バランスボールを用いた運動（グループで行う運動）</p> <p>第15回 自重負荷を用いた筋力トレーニング</p>
成績評価・方法	レポート：50%、態度（理由、報告のない欠席、途中入退室等）：50%
授業概要	有酸素運動や筋力トレーニング、ストレッチングなどのフィットネストレーニングの技術を習得していく。講義期間を通して、自らの体調チェックや体力レベルを維持・増進したりできる手段を身につける。
実務経験及び授業の内容	様々な自治体での運動教室やスポーツ指導、山形県スポーツ医科学推進会議委員、山形県トレーナー協会理事などでの経験を生かし体育実技 I の授業を行う。
時間外学習	自分ができない技術やグループでの打ち合わせが必要であれば適宜行う。
教科書	必要な資料は授業時に配布する。
参考文献	
履修条件	
備考	



講義科目名称：体育実技Ⅱ（60430）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	選択必修
担当教員			
加藤 守匡			
基盤教育群	保健体育		授業形態：実習

授業のテーマ及び到達目標	球技やラケット競技などの個人スポーツ、チームスポーツ、ニュースポーツなど様々なスポーツを行う。各種目の最初では、ルール説明などを行い種目毎の特性を理解する。また、練習やゲームなどを通して身体を動かすことの楽しさやこれまでに経験したことのないスポーツについて学習する。
授業計画	<p>第1回 インディアカ（種目の理解と練習及び試合）</p> <p>第2回 インディアカ（複数のチームを作り試合）</p> <p>第3回 ソフトバレーボール（種目の理解と練習及び試合）</p> <p>第4回 ソフトバレーボール（チームの中で連携した動きを習得し試合での応用を目指す）</p> <p>第5回 ソフトバレーボール（複数のチームを作り試合）</p> <p>第6回 ユニホック（種目の理解と練習及び試合）</p> <p>第7回 ユニホック（チームの中で連携した動きを習得し試合での応用を目指す）</p> <p>第8回 ユニホック（複数のチームを作り試合）</p> <p>第9回 バスケットボール（種目の理解と練習及び試合）</p> <p>第10回 バスケットボール（チームの中で連携した動きを習得し試合での応用を目指す）</p> <p>第11回 バスケットボール（複数のチームを作り試合）</p> <p>第12回 卓球（基本的技能の習得）</p> <p>第13回 卓球（複数の対戦相手を設定し試合）</p> <p>第14回 バドミントン、テニス（基本的技能の習得）</p> <p>第15回 バドミントン、テニス（複数の対戦相手を設定し試合）</p>
成績評価・方法	レポート：50%、態度（理由、報告のない欠席、積極性等）：50%
授業概要	球技やラケット競技などの個人スポーツ、チームスポーツ、ニュースポーツなど様々なスポーツを行う。各種目の最初では、ルール説明などを行い種目毎の特性を理解する。また、練習やゲームなどを通して身体を動かすことの楽しさやこれまでに経験したことのないスポーツについて学習する。
実務経験及び授業の内容	様々な自治体での運動教室やスポーツ指導、山形県スポーツ医科学推進会議委員、山形県トレーナー協会理事などでの経験を生かし体育実技Ⅱの授業を行う。
時間外学習	自分ができない技術やグループでの打ち合わせが必要であれば適宜行う。
教科書	必要な資料は授業時に配布する。
参考文献	
履修条件	
備考	

講義科目名称：心理学（60510）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	必修
担当教員			
沼山 博			
教養教育群	人間と文化・社会		授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	テーマ：心理学入門 到達目標： 1) 人間の感覚や知覚の特徴について説明できる。 2) 人間の認知や学習・記憶のしくみについて説明できる。 3) 心理学的なパーソナリティの捉え方について説明できる。また、自分のパーソナリティについての考察を深める。		
授業計画	第1回	心理学とは	
	第2回	人間の知覚(1) 感覚と知覚	
	第3回	人間の知覚(2) 視覚と聴覚	
	第4回	人間の知覚(3) 味覚と嗅覚	
	第5回	高齢者の知覚(1) 視覚と聴覚	
	第6回	高齢者の知覚(2) 味覚と嗅覚	
	第7回	人間の情報処理のしくみ(1) 情報処理のしくみ	
	第8回	人間の情報処理のしくみ(2) 記憶のしくみ	
	第9回	人間の情報処理のしくみ(3) 脳と実行機能	
	第10回	パーソナリティ(1) パーソナリティの心理学的な捉え方	
	第11回	パーソナリティ(2) パーソナリティテストを体験する	
	第12回	ストレスを心理学的にとらえる(1) ストレスの種類	
	第13回	ストレスを心理学的にとらえる(2) ストレスコーピング	
	第14回	ストレスを心理学的にとらえる(3) ソーシャルサポート	
	第15回	まとめと試験	
成績評価・方法	期末試験60%、授業への取り組み（小レポート等）40%		
授業概要	人間の理解や支援とかかわる際に必要な心理学的知識について概述する。まず人間の知覚や情報処理のしくみや特徴について解説する。特に高齢者については詳しく取り上げる。このほか、パーソナリティテストを体験し、自分のパーソナリティについての考察を深めるとともに、心理学的なパーソナリティの捉え方について説明する。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	配布資料を用いて、予習・復習すること。		
教科書	教科書は使用せず、講義資料を配布する。		
参考文献	参考文献は適宜紹介する。		
履修条件	特になし。		
備考	教材等の都合により、日程が変更になることがあります。		

講義科目名称：コミュニケーション論（60520）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	必修
担当教員			
沼山 博			
教養教育群	人間と文化・社会		授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	<p>テーマ：コミュニケーションについての心理学的知見に触れながら、自らのコミュニケーションを振り返る到達目標：</p> <p>①人間のコミュニケーションの特徴や傾向について説明できる。          ②情報を伝達する際の留意点について説明できる。          ③言語的コミュニケーションにおける留意点について説明できる。          ④心理カウンセリングの基本的な考え方について説明できる。          ⑤マイノリティの理解についての基本的な考え方を説明できる。</p>
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 人間のコミュニケーションの特徴や傾向（1）</p> <p>第3回 人間のコミュニケーションの特徴や傾向（2）</p> <p>第4回 人間のコミュニケーションの特徴や傾向（3）</p> <p>第5回 情報伝達における留意点（1）</p> <p>第6回 情報伝達における留意点（2）</p> <p>第7回 言語的コミュニケーションにおける留意点（1）</p> <p>第8回 言語的コミュニケーションにおける留意点（2）</p> <p>第9回 言語的コミュニケーションにおける留意点（3）</p> <p>第10回 心理カウンセリングの考え方を通して学ぶ（1）</p> <p>第11回 心理カウンセリングの考え方を通して学ぶ（2）</p> <p>第12回 心理カウンセリングの考え方を通して学ぶ（3）</p> <p>第13回 マイノリティ理解を通して人間理解を考える（1）</p> <p>第14回 マイノリティ理解を通して人間理解を考える（2）</p> <p>第15回 まとめ</p>
成績評価・方法	期末レポート40%、授業内提出物60%
授業概要	人間とかわる際に必要なコミュニケーションに関する基本的知識について、主として心理学的知見を通して理解する。取り上げる内容は、①人間のコミュニケーションの特徴や傾向、②情報伝達の際の留意点、③言語的コミュニケーションにおける留意点、④心理カウンセリングの基本的な考え方、⑤マイノリティ理解を通して人間理解を考える、の5項目である。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	配布された資料を用いて、復習を行うこと。ふりかえり課題がある場合はそれを行うこと。
教科書	教科書は使用しない。講義で適宜資料を配布する。
参考文献	講義内で紹介する。
履修条件	特になし。
備考	実際に人とかわる場面があるので、その点に留意して履修すること。提出物は締切を厳守すること。

講義科目名称：社会学（60530）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期（集中）	1・2・3・4	2	選択
担当教員			
阿部 晃士			
教養教育群	人間と文化・社会		授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	出生、学ぶ、働く、家族、病い・老い、死と、人びとが経験するライフイベントを取り上げ、その背後にある現代社会の特質と社会のしくみについて考察することをテーマとする。到達目標は、(1) それぞれのライフイベントを通して現代社会の特質やそこにいたる経緯を把握すること、(2) その社会現象がどのようなメカニズムで起きているのかを考察するため社会学の基礎知識と考え方を身につけること、(3) 今後の社会の変化について考察し、課題解決のための方策を自ら提案したり、その有効性を検討できるようになることである。
授業計画	<p>第1回 インTRODクシヨN</p> <p>第2回 出生 (1) なぜ子どもが生まれなくなっているのか</p> <p>第3回 出生 (2) 妊娠、出産という経験はどのように変わっているのか</p> <p>第4回 学ぶ／教える (1) なぜ学ぶことが「義務」になっているのか</p> <p>第5回 学ぶ／教える (2) 学校という場所はどのような場所か</p> <p>第6回 働く (1) 「働くこと」の社会的な位置づけ</p> <p>第7回 働く (2) 「社会」のなかで働くこと</p> <p>第8回 家族 (1) 近代化は家族をどう変えてきたのか</p> <p>第9回 家族 (2) 家族であるとはどのようなことか</p> <p>第10回 病い・老い (1) 統計学は医療とどうかかわってきたか</p> <p>第11回 病い・老い (2) 病むこと・老いることは、どのような経験か</p> <p>第12回 死 (1) 社会学は自殺をどう扱ってきたか</p> <p>第13回 死 (2) 社会において「死」はどのように見えるか</p> <p>第14回 科学・学問 (1) 社会学における理論と実証</p> <p>第15回 科学・学問 (2) 科学と社会はどのような関係にあるのか</p>
成績評価・方法	授業中の小レポート（40％）と試験（60％）
授業概要	社会学及びその関連領域には、研究手法として量的なアプローチと質的なアプローチがある。量的アプローチでは、大規模な社会調査を行い、そのデータを統計的に分析する。一方、質的アプローチでは、少数の事例や人びとを対象に聞き取り調査などを行い、その結果の意味を解釈する。この授業では、出生、学ぶ、働く、家族、病い・老い、死と、人びとが経験するライフイベントを取り上げ、そこにどのような課題があるか、量的アプローチと質的アプローチの双方から接近する。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	日頃から新聞やニュースに触れて、私たちが生活する社会の現状や課題について考えること。
教科書	筒井淳也・前田泰樹、2017、『社会学入門－社会とのかかわり方』有斐閣。(1,900円+税) ISBN 978-4-641-15046-1
参考文献	
履修条件	
備考	

講義科目名称：教育学（60540）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2・3・4	2	選択
担当教員			
安部 貴洋			
教養教育群	人間と文化・社会		授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	<p>テーマ：教育に関する基本的概念、教育史・教育思想、現代の教育</p> <p>到達目標：</p> <p>(1)教育の基本的概念を説明できる。</p> <p>(2)教育思想とその歴史的展開を説明できる。</p> <p>(3)現代の教育制度・カリキュラム・教育評価等を説明できる。</p> <p>(4)現代の教育課題を踏まえ、自分の考えを述べることができる。</p>
授業計画	<p>第1回 授業概要の説明と授業計画 教育学とは何か</p> <p>第2回 教育と子ども 教育の概念と近代的孩子観の誕生とその変遷</p> <p>第3回 学校とは何か 学校の起源、近代学校の成立とその特徴</p> <p>第4回 教育の歴史と思想①近代以前 ソクラテス、プラトンなど</p> <p>第5回 教育の歴史と思想②近代以降 ルソー、ペスタロッチ、デューイなど</p> <p>第6回 教育の歴史と思想③日本における教育思想 幕末、戦前の教育とその歴史的展開</p> <p>第7回 学ぶということ 一斉授業の起源とその歴史的展開、「学び」の現在</p> <p>第8回 教育の制度 日本の教育制度とその歴史的展開、学校系統図</p> <p>第9回 教育課程 カリキュラムの定義、子どもの生活とカリキュラム</p> <p>第10回 教育評価 学力評価の定義とその展開、近年の新しい試み</p> <p>第11回 特別支援教育 特別支援教育の理念と歴史</p> <p>第12回 現代教育の課題① いじめ、不登校、自殺等</p> <p>第13回 現代教育の課題② 子ども虐待、体罰等</p> <p>第14回 諸外国の実践 シュタイナー、レッジョ・エミリアなど</p> <p>第15回 理解の確認と総括</p>
成績評価・方法	テスト40%、レポート 40%、発表 20%
授業概要	<p>授業は、教育に関する基本的概念、教育史と教育思想、現代の教育の三部から構成されている。第2回から第3回の授業において「教育とは何か」等の問いを中心に教育に関する基本的概念を理解する。第4回から第7回までの授業において、ソクラテスやプラトン等の教育思想とその歴史的展開を理解する。第8回の授業以降、現代日本における教育制度・カリキュラム・教育評価等に関する基本的事項を理解する。また、「いじめ」や不登校といった教育課題に対する様々な考えを理解し、自分の考えをまとめる。</p> <p>授業では適宜グループワークを行う。授業毎にまとめを行い、質問・感想等を提出する。レポート課題を3回程度課す。提出された質問・感想とレポートは学びを深めるために授業で紹介するとともに、コメントを付けて返却する。</p>
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	配布資料をもとに講義内容を整理するとともに、さまざまなメディアをとおして学びを深めること。
教科書	使用しない。適宜、授業資料を配布する。
参考文献	<p>田中智志・今井康雄編『キーワード 現代の教育学』（東京大学出版会、2009年）</p> <p>木村元・小玉重夫・船橋一男 [著] 『教育学をつかむ』（有斐閣、2009年）</p> <p>教育思想史学会 [編] 『教育思想事典 増補改訂版』（勁草書房、2000年）</p>
履修条件	

講義科目名称：法学（日本国憲法）（60550）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2・3・4	2	選択
担当教員			
堀田 学			
教養教育群	人間と文化・社会		授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	<p>〈授業のテーマ〉</p> <p>日本国憲法は、人権と統治に分かれます。人権では、「表現の自由」や「社会権」などの問題に関連し、統治では国会や内閣、裁判所がその対象となります。憲法は遠い存在のように思えますが、実は身近な事象に関連するものでもあります。この講義では、日本国憲法の全体像をとらえ、自ら考え、答えを導けるようになることをめざします。</p> <p>〈到達目標〉</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本国憲法の構造を理解する。</li> <li>2. 憲法の規定に則って統治機構が動いていることを理解する。</li> <li>3. 人権概念を理解する。</li> </ol>
授業計画	<p>第1回 憲法の基礎</p> <p>第2回 参政権</p> <p>第3回 国会</p> <p>第4回 内閣</p> <p>第5回 裁判所</p> <p>第6回 象徴天皇制</p> <p>第7回 平和主義</p> <p>第8回 人権総論 1（人権の理念と歴史）</p> <p>第9回 人権総論 2（人権の享有主体性）</p> <p>第10回 信教の自由と政教分離</p> <p>第11回 表現の自由</p> <p>第12回 経済的自由</p> <p>第13回 人身の自由</p> <p>第14回 社会権</p> <p>第15回 幸福追求権</p>
成績評価・方法	期末試験(100%)
授業概要	日本国憲法は、最高法規であるため様々な法律にもその理念が活かされています。日本国憲法は、身近な生活にもその理念は活かされています。この授業では、日本国憲法の意義と課題について考えていきます。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	配布したレジュメ等を授業が終わってから見直し、知識の定着を図ること。また、新聞やニュースを毎日チェックし、社会の動きに敏感になること。
教科書	駒村圭吾編『プレステップ憲法(第3版)』弘文堂、2021年 1980円 ISBN 9784335001536
参考文献	
履修条件	
備考	

講義科目名称：企業論（60560）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2・3・4	2	選択
担当教員			
高浜 快斗			
教養教育群	人間と文化・社会		授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	企業活動に関する基礎的な概念について学修することを通じて、私たちの生活に企業活動が密接に結び付いていることを理解できる、その企業活動におけるマネジメントの仕組みについて理解することができる、という2点の能力を身に付ける。		
授業計画	第1回	企業経営の全体像：企業とはどのような存在なのか	
	第2回	経営学の全体像：企業を対象とした学問は金儲けの学問なのか	
	第3回	企業と社会：企業形態と株式会社	
	第4回	企業とインプット市場との関わり	
	第5回	企業とアウトプット市場との関わり	
	第6回	競争戦略のマネジメント1：「選ばれる」を作るプロセス	
	第7回	競争戦略のマネジメント2：「勝つ」企業のパターン	
	第8回	多角化戦略のマネジメント：事業の範囲拡大，単一から複数へ	
	第9回	国際化のマネジメント：企業活動の地理的な拡がり	
	第10回	マクロ組織のマネジメント：組織構造のバリエーション	
	第11回	ミクロ組織のマネジメント：働く人をやる気にさせるためには	
	第12回	キャリアデザイン：人生とキャリアのデザイン	
	第13回	ファミリービジネスのマネジメント：創業者一族による経営	
	第14回	非営利組織のマネジメント：博物館や病院に経営は必要なのか	
	第15回	総括	
成績評価・方法	試験(100%)		
授業概要	パワーポイントを使う講義形式。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	ドキュメンタリー，ニュース，新聞等で本講義に関連するものがあれば，できるだけ閲覧すること。1回当たりの講義に対して，1時間程度の予復習が望ましい。		
教科書	初回の講義で指定する。		
参考文献	伊丹敬之・加護野忠男(2003)『ゼミナール経営学入門(第3版)』日本経済新聞出版社。 加護野忠男・吉村典久編(2021)『1からの経営学(第3版)』碩学社。 三戸浩・池内秀己・勝部伸夫(2018)『企業論(第4版)』有斐閣。		
履修条件			
備考			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3・4	2	選択必修
担当教員			
村瀬 桃子			
教養教育群	人間と文化・社会		授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	この授業の目的は、自分と異なる文化を持つ人たちと比較するため、まず①各自の生まれた地域の文化について再確認することである。その上で、②異なる文化・価値観をもつ他者と、共生するためには何が大切なのかを考えたい。		
授業計画	第1回	オリエンテーション 15回の授業内容や、中間発表(生まれ育った地域の文化の紹介)と最終発表(受講者が関心をもって いることに関連する新聞記事を選び、要約し、自身の見解を述べる)についての説明を行う。	
	第2回	日本の中の異文化(1)ある小学校では… 日本にいる外国ルーツの子どもたちが抱える様々な問題について知る。	
	第3回	日本の中の異文化(2)ある朝鮮学校では… 日本にルーツを持たない子どもたちの中には、朝鮮半島にルーツを持つ子どもも多い。朝鮮学校に通う子どもたちの日常から、どのような問題があるか知る。	
	第4回	アイヌ・沖縄 日本にも、本土と異なる文化を持つ人たちがいる。アイヌの人たちや沖縄の人たちが抱える問題を知る。	
	第5回	日本における性的マイノリティの問題① 外国ルーツの子どもたちも、アイヌや沖縄も、「少数者」ゆえの問題という側面がある。多数派の人たちが見ている世の中と、少数派である人たちが見ている世の中は、見え方が違う。性的少数者の視点を通して、今の社会の問題を考える。日本における性的マイノリティの問題は何かを知る。また、中間発表①を行う。	
	第6回	日本における性的マイノリティの問題② 性同一性障害であり身体障がいでもある(ダブルマイノリティー)方のドキュメンタリーを通して、少数派の中の少数派の問題を知る。また、中間発表②を行う。	
	第7回	カナダの多文化主義の教育 カナダは多文化主義教育を積極的に行っている。今まで見てきた日本の状況と比較する。また、中間発表③を行う。	
	第8回	タイの性的マイノリティ タイのある学校における性的マイノリティの生徒への取り組みを知る。また、中間発表④を行う。	
	第9回	女性の問題① マララ・ユスフザイさんらの活動等を通して、過酷な状況にある女性の現状を知り、これら女性に対する支援や自立への取り組みについて知る。また、中間発表⑤を行う。	
	第10回	女性の問題② パキスタン等の国や地域の一部に残っている「名誉殺人」の問題を中心に、女性の人権問題について知る。また、中間発表⑥を行う。	
	第11回	女性の問題③ 主にアフリカ大陸の女性たちの問題(女性性器切除)を知る。	
	第12回	ジェンダー今昔 近代以降、日本では「子育ては母親がするもの」という考え方が広まるが、それ以前の江戸時代はどうだったのか。歴史をさかのぼってみていくと、同じ日本でも全く異なった文化や考え方があったことを知る。	
	第13回	発表① 今までで興味をもった内容や、新たに疑問に思ったことなどに近い内容の新聞記事を選び、パワーポイントで発表する(個人発表)。	
	第14回	発表② 今までで興味をもった内容や、新たに疑問に思ったことなどに近い内容の新聞記事を選び、パワーポイントで発表する(個人発表)。	
	第15回	発表③ 今までで興味をもった内容や、新たに疑問に思ったことなどに近い内容の新聞記事を選び、パワーポイントで発表する(個人発表)。	
成績評価・方法	発表(2回分で50%)、毎回の感想(30%)、レポート(20%)で評価する。		
授業概要	異なる文化を持つ者の「生の声」をなるべく聞くため、ほぼ毎回ドキュメンタリー番組等の映像資料を用いる。また「異文化理解」とは何かを考えるため、発表を2回行う(なお、授業計画の第5～10回の半分の時間は個人発表にあて、第13～15回は発表の時間とする。)		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	自分の生まれ育った地域の文化について、調べておく。また、国内外の「異文化」について、日頃から新聞等で関心を持って見聞きすること。		
教科書	教科書は使用しない。		
参考文献	参考文献等は、その都度紹介する。		



講義科目名称：国際関係論（60580）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3・4	2	選択必修
担当教員			
堀田 学			
教養教育群	人間と文化・社会		授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	<p>〈授業のテーマ〉 この講義では、政治・経済・社会など多面的な側面から世界で起こっている様々な事象を理解し、考察できるようになることをめざします。</p> <p>〈到達目標〉 1. 国際関係論の理論を理解する。 2. グローバルな課題を理解する。 3. 国際問題を理解する。</p>
授業計画	<p>第1回 国際関係論とは何か</p> <p>第2回 20世紀の国際関係 1（2つの世界大戦と国際関係）</p> <p>第3回 20世紀の国際関係 2（冷戦時代の国際関係）</p> <p>第4回 20世紀の国際関係 3（ポスト冷戦時代の国際関係）</p> <p>第5回 現代の国際関係(9・11以降の国際関係)</p> <p>第6回 国際関係理論 1（リアリズム）</p> <p>第7回 国際関係理論 2（リベラリズム）</p> <p>第8回 国際機関</p> <p>第9回 欧州統合</p> <p>第10回 民族紛争・宗教対立</p> <p>第11回 環境問題</p> <p>第12回 食糧問題</p> <p>第13回 安全保障</p> <p>第14回 日本外交</p> <p>第15回 これからの国際関係</p>
成績評価・方法	期末試験(100%)
授業概要	現代の国際社会は、グローバル化が進行する一方で、反グローバル化の動きやポピュリズムの台頭なども世界各地で起こっています。この授業では多角的な視座から世界を見ることができるよう知識を得ることを目標とします。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	新聞やニュースを毎日チェックし、国際問題に関する知識を深め、関心を持ってください。
教科書	
参考文献	佐渡友哲・信夫隆司編『国際関係論（第2版）』弘文堂、2016年 滝田賢治ほか編『国際関係学（第2版）』有信堂、2017年 小原雅博『大学4年間の国際政治学が10時間でざっと学べる』KADOKAWA、2021年
履修条件	
備考	

講義科目名称：微生物学（60611）

授業コード：

英文科目名称：-

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期（集中）	1	2	必修
担当教員			
熊田 薫			
教養養育群	人間と自然		授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	生物学および進化の視点から微生物を理解する。次に食との関わりにおいて微生物を理解する。すなわち、発酵食品など有用な微生物、感染症や食中毒など有害な微生物について理解することを目指す。		
授業計画	第1回	地球史における生命の起源と微生物について考える	
	第2回	微生物研究の歴史 微生物の発見から今日に至る微生物研究の歴史について考える	
	第3回	微生物の分類 真正細菌、古細菌、真菌、原生動物、ウイルスなどについて分類学上の位置	
	第4回	真正細菌と古細菌 その進化と分類学上の位置および真核生物のとの関係	
	第5回	真菌の種類と分類、原生動物の特徴と分類 いわゆるカビ、コウボおよびキノコの分類と生態	
	第6回	感染症法、新興感染症	
	第7回	ウイルスとはなにか ウイルスの構造、遺伝子、宿主、増殖の特性等	
	第8回	微生物の生態 微生物の多様な生息領域、環境および他の生物との関連	
	第9回	地球環境と微生物 光合成微生物による酸素の産生と地球環境の変動および他の生物との関連	
	第10回	細菌と食品、疾病 細菌を利用した発酵食品の概論および細菌による疾病概論	
	第11回	真菌と食品、疾病 真菌を利用した発酵食品の概論および細菌による疾病概論	
	第12回	ウイルスと疾病 ウイルスによる疾病と特徴	
	第13回	トピックスⅠ RNAワールド、covid-19、進化生物学におけるRNAの役割について	
	第14回	トピックスⅡ 納豆を作る細菌（枯草菌）の特徴と納豆の特徴について	
	第15回	まとめ：全体のまとめおよび微生物に関するその時々話題を取り上げ、微生物学の見地から考える	
成績評価・方法	試験（90%）および授業中の発言や質疑（10%）		
授業概要	生命の起源と微生物、一般微生物学、発酵食品と微生物、および感染症・食中毒と微生物をテーマとして全体を構成する。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	必要に応じ基礎的な学習（高校の生物・科学）を復習すること。		
教科書	新版改訂 微生物と免疫 林修著 建帛社 ISBN 978-4-7679-0685-0		
参考文献	ブラック微生物学第3版(原書8版)、林英生他訳 ISBN 978-4-621-08813-5		
履修条件			
備考			

講義科目名称：自然科学 I（化学）（60620）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択
担当教員			
大益 史弘			
教養教育群	人間と自然		授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	原子、分子、電子レベルの世界を学習し、物質の構造・性質について理解し、その上で物質同士の相互作用に関わる化学結合、化学変化（化学反応）のメカニズムについて学ぶ。さらに、様々な機能を有する有機化合物を主に取り上げ、その構造、反応、多様性について学ぶ。		
授業計画	第1回	物質の構成要素と原子の構造	
	第2回	元素の周期律と物質量	
	第3回	化学結合	
	第4回	液体と溶液の濃度	
	第5回	気体	
	第6回	化学反応と化学平衡	
	第7回	化学熱力学	
	第8回	酸・塩基と中和	
	第9回	酸化還元反応	
	第10回	無機化学	
	第11回	有機化学	
	第12回	高分子化合物	
	第13回	高分子化合物演習	
	第14回	環境と化学	
	第15回	環境化学演習	
成績評価・方法	テスト40%、レポート40%、授業への参加度20%		
授業概要	自然科学の一分野である化学は日常生活に非常に関わりの深い学問である。ここでは、ミクロな世界からマクロな世界に至る物質の世界を軸に段階的に学習する。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「化学基礎」の教科書に目を通しておくこと。</li> <li>・物質を原子や分子レベルで理解できるようにしておくこと。</li> </ul>		
教科書	資料を適宜配布		
参考文献			
履修条件			
備考			

講義科目名称：自然科学Ⅱ（生物学）（60630）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択
担当教員			
佐塚 正樹			
教養教育群	人間と自然		授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	管理栄養士は人という「生物」を相手にしているので生物学の知識は必須である。そこで本講義では、高校時代、生物を選択しなかった学生でも理解でき、これから学ぶ栄養学の助けになるように細胞、組織、器官、器官系、個体の生物学および生理・生化学を中心に教授する。選択科目ではあるが、非常に重要な基礎科目なので高校時代、生物を選択したしなないに関わらず、全員の履修をお勧めしたい。
授業計画	<p>第1回 管理栄養士と生物学のかかわり 管理栄養士と生物学のかかわりを概説し、生物を定量的に捉える数学的な考え方も概説したい。</p> <p>第2回 細胞の種類と細胞内小器官 全ての生命は細胞が生きる単位であり今後学ぶ栄養学に必要な知識の細胞について解説する。</p> <p>第3回 単細胞生物、多細胞生物およびウイルス 単細胞生物、多細胞生物とウイルスを分類する。この回は生理学と解剖学の基礎知識にもなる。</p> <p>第4回 生命体に必須の物質 管理栄養士に必要な化学物質：五大栄養素と水について解説する。</p> <p>第5回 遺伝子の構造と機能 「体質」は遺伝的特徴である。分子生物学と古典的遺伝学(メンデルの法則)の基礎を解説する。</p> <p>第6回 生体エネルギー①解糖系・クエン酸回路・電子伝達系 なぜ我々は、生きていられるのか？管理栄養士の必須学問：代謝生化学の基礎知識を教授する。</p> <p>第7回 生体エネルギー②代謝側路 ヒトの解糖系・クエン酸回路・電子伝達系以外の代謝側路の重要性と役割を紹介する。</p> <p>第8回 生命エネルギー③酵素の役割 グルコースや脂肪酸がエネルギーになるのは理解できたとして、一つ一つの反応はどう進むのか？グルコースの塊は火がつくと酸化する(燃焼反応)。しかしヒトは酵素(生体触媒)のおかげで、燃焼反応と同等の酸化が37℃(体温)で可能である。その酵素の解説を行う。</p> <p>第9回 光合成と窒素同化 植物系の微生物から草花・木々が有する光合成と窒素同化の仕組みを紹介する。</p> <p>第10回 細胞分裂とがん 細胞は細胞分裂が行える。細胞分裂の仕組みと細胞の異常増殖(がんなど)の基礎知識を学ぶ。</p> <p>第11回 生殖 細胞分裂を理解したところで、生殖の基礎を学ぶ。主にヒトの生殖を解説する。</p> <p>第12回 ホメオスタシスの基礎① ヒトを中心にホメオスタシスを解説する。この回は生理学の基礎知識となる。</p> <p>第13回 ホメオスタシスの基礎② エネルギー論と材料論について論じる。</p> <p>第14回 免疫 食物アレルギーを理解する上で必要なヒトの免疫について参考書籍を紹介して概説する。</p> <p>第15回 生命倫理と総まとめ バイオテクノロジー時代の生命倫理を概説する。そして本講義の総まとめを行う。</p>
成績評価・方法	テスト80%，授業態度・レポート20%
授業概要	管理栄養士は内科医相当の生化学・生理学の知識が必要なので、生化学・生理学を理解するための基礎知識を本講義で教授する。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	将来の生化学・生理学・栄養学の勉強の助けになるように本学図書館電子書籍Ya-Sa-Shi-I biological Science (本講義教科書：やさしい基礎生物学第2版English ver)を参考に英語(専門用語や図表、前置詞)になれることを推奨します。
教科書	南雲保編著、やさしい基礎生物学第2版羊土社
参考文献	①Trudy McKee/James R. McKee(著)福岡伸一(翻訳)マッキー生化学 ―分子から解き明かす生命―第6版 化学同人 ②河本宏著、マンガでわかる免疫学、オーム社 ③武村政春著、マンガでわかる生化学、オーム社 以上3冊は、すべて本学図書館電子書籍で閲覧可能
履修条件	
備考	

講義科目名称：自然科学演習（60640）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	選択
担当教員			
大益 史弘			
教養教育群	人間と自然		授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	主に生物化学を背景とした演習によって自然現象を理解し、創造力を育成する。実際に我々の身の回りで日常的に起こっている自然現象を中心に持ち上げ、それらの出来事を自然科学的に捉え、さらには説明することができることを目標とする。		
授業計画	第1回	物質の三態演習（液体）	
	第2回	物質の三態演習（固体）	
	第3回	物質の三態演習（気体）	
	第4回	軟水と硬水	
	第5回	カルシウムとマグネシウム	
	第6回	水質検査（硬度）	
	第7回	酸化還元反応演習（銅と銀）	
	第8回	酸化還元反応演習（鉄と銅）	
	第9回	酸化還元反応演習（化学電池）	
	第10回	高分子化合物演習（炭水化物）	
	第11回	高分子化合物演習（塩酸による糖化）	
	第12回	高分子化合物演習（アミラーゼ）	
	第13回	環境化学演習（空気）	
	第14回	環境化学演習（環境水）	
	第15回	環境化学演習（飲料水）	
成績評価・方法	レポート80%、授業への参加度20%		
授業概要	化学および生物学の内容をよく理解した上で、さらなる基本的知識と応用力を習得しながら、予測した結果を得て考察する自然科学を探求するためのプロセスの一部を経験する。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・物質の生化学的な事象に関心を持つこと。</li> <li>・「化学基礎」の教科書や参考書等に目を通しておくこと。</li> <li>・授業で出てきた重要な物質について覚えるようにする。</li> </ul>		
教科書	資料を適宜配布		
参考文献			
履修条件			
備考			

講義科目名称：統計学（60650）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	選択
担当教員			
鈴木 久美			
教養教育群	人間と自然		授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	本講義では、定量的な分析の基礎となる統計理論を学習し、記述統計および推測統計の両方を利用できる能力を養うことを目的とします。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス・保健統計の必要 授業の解説（シラバスの追加説明など）、遠隔授業の進め方、今後の予定を場合分け（全て対面授業の場合～全て遠隔授業の場合までのいくつかの段階）して説明します。</p> <p>第2回 統計学の基礎・度数分布表・ヒストグラム</p> <p>第3回 分布の特性値①：分布の中心をあらわす値（平均・中央値）</p> <p>第4回 分布の特性値②：分布の中心をあらわす値（最頻値）・分布のばらつきをあらわす尺度（分散）</p> <p>第5回 分布の特性値③：分布のばらつきをあらわす尺度（標準偏差・四分位範囲など）</p> <p>第6回 確率分布①：標準正規分布</p> <p>第7回 区間推定①：母平均の推定（母分散が既知の場合）</p> <p>第8回 区間推定②：母平均の推定（母分散が未知の場合）</p> <p>第9回 区間推定③：母比率の推定</p> <p>第10回 仮説検定①：検定の考え方</p> <p>第11回 仮説検定②：母平均に関する検定</p> <p>第12回 仮説検定③：二種類のエラー</p> <p>第13回 確率分布②：<math>\chi</math> 二乗分布</p> <p>第14回 区間推定④：母分散の推定</p> <p>第15回 総まとめ</p>
成績評価・方法	<p>【対面授業の場合】 テスト100%</p> <p>【遠隔授業の場合】 小課題、授業代替の追加課題、ノート、期末課題などで総合的に判断します。詳しくは第1回の授業で説明します。</p>
授業概要	テーマとなる統計の概念を学習した後、実際に簡単な数値を利用して統計処理の練習を行う予定です。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	予習：特に必要としません。 復習：学習した知識の定着のため、練習問題を解くことを勧めています（30分～1時間程度）。
教科書	縣俊彦『やさしい保健統計学[改訂第5版増補]』（1,800円＋税）
参考文献	東京大学教養学部統計学教室編『統計学入門』東京大学出版会（1,800円＋税） 佐藤敏雄・村松宰『やさしい医療系の統計学〔第二版〕』医歯薬出版株式会社（3,000円＋税）
履修条件	1回目の講義では授業方法等に関して説明します。対面・遠隔に関わらず必ず第1回の授業を受講してください。
備考	電卓（ルート必須）・テキストを利用します。 TeamsおよびClassNoteBookを利用します。 Teamsへのアクセスに関しては、栄養大の公式発表に従ってください。 遠隔授業の場合、第1回講義までは特に履修制限はしませんが、第2回からは履修登録した学生のみTeamsおよびClassNoteBookへのアクセスを認めます。